

■山本五十六 海軍軍人。連合艦隊司令長官として真珠湾攻撃、<日米開戦>初戦大勝も、のち搭乗機が撃墜され戦死。

やまもと いそろく

秩父事件・ 1884 = 長岡藩士高野貞吉の六男として、現在の長岡市に生れた。

帝国憲法発布1889 = 5歳：

郡司千島探検1893 = 9歳：

日清戦争始・ 1894 = 10歳：

教科書疑獄・ 1902 = 18歳：

日露戦争始・ 1904 = 20歳： 海軍兵学校(32期)を卒業。
日露戦争終・ 1905 = 21歳： <日露戦争>の日本海海戦に装甲巡洋艦{日進}に乘組み、重傷を負う。

砲術専攻の将校として進み、

大逆事件判決1911 = 27歳：

明治天皇没・ 1912 = 28歳：

民本主義・ 1916 = 32歳： 海軍大学校(14期)卒業。長岡藩の家老であった山本家を継いだ。

大暴落・ 1920 = 36歳： 海軍大学校教官，駐米武官などを経験するうちに，

原敬首相暗殺 1921 = 37歳： 航空を重要視するようになり，

護憲三派圧勝1924 = 40歳： 霞ヶ浦海軍航空隊教頭兼副長となる。

空母{赤城}艦長での経験で確信。

世界恐慌・ 1929 = 45歳： *第一次ロンドン軍縮会議随員を務め，帰国すると，海軍航空本部技術部長，以後，重要役職を歴任し，短
満州事変・ 1931 = 47歳： 時日のうちに，日本海軍航空を世界第一級の水準に高めて行く。

帝人疑獄事件1934 = 50歳： 第二次ロンドン軍縮会議予備交渉の日本側代表(軍備制限予備会議全権委員)，

芥川直木賞始1935 = 51歳： 海軍航空本部長，

二二六事件・ 1936 = 52歳： *米内光政海相のもとで海軍次官を務め，海相を補佐して日独伊三国同盟の締結に反対した。

日中戦争始・ 1937 = 53歳：

健保+総動員 1938 = 54歳：

第二次大戦始1939 = 55歳： 平沼騏一郎内閣の総辞職に伴って中央を離れ，連合艦隊司令長官兼第1艦隊司令長官となった。

大政翼賛会・ 1940 = 56歳： 大将昇進。

日米開戦・ 1941 = 57歳： *連合艦隊司令長官専任となり，暗号"ニイタカヤマノボレ1208"発信。太平洋戦争の指揮をとり，初戦に大
勝利を博したが，

創価学会検挙1943 = 59歳： *ソロモン諸島ブーゲンビル島上空で搭乗機を撃墜されて戦死，元帥を贈られ，国葬が行われた。